



JSQC ニュース

No.263

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507

ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス QMS有効活用及び審査研究部会の活動計画
- 2-ルポルタージュ 第96回緊急講演会ルポ / 第305回事業所見学会ルポ
- 3-ルポルタージュ 第310回中部事業所見学会ルポ / 第95回中部講演会ルポ
- 4-総会のお知らせ / 入会者紹介 / 会費請求 / 行事案内 / 教員募集

QMS有効活用及び審査研究部会の活動計画

- ISO9001のQMSからの発展と適切な審査のあり方に関する研究活動 -

QMS有効活用及び審査研究部会 部会長・(有)福丸マネジメントテクノ 代表取締役 福丸 典芳

前号のJSQCニュースで部会員を募集したとおり「QMS有効活用及び審査研究部会」が活動開始しました。

1. 研究部会設立の目的

ISO9000ファミリーが2000年に改訂されたことによる審査活動の課題の一つに、審査員の力量向上を図る必要があるという意見が各界から出されました。このため、審査員の力量向上のための「ISO9000:2000審査研究会」を2000年12月に計画研究会として立ち上げ、2年間の研究成果として「ISO9000:2000に基づく第三者審査のためのガイドライン」を2002年に発行しました。

しかし、審査登録制度に関する各種アンケート結果から、現在でも相変わらず審査員の力量が低い、審査員の審査技術にばらつきがあるなどの意見が組織から出されており、審査員の力量に関する課題が依然とし

て顕在化しています。また、組織からは自組織のQMSの改善に役立つ指摘をしてほしいとの要望もありますが、審査の場でのコンサル活動は禁止されています。これに応えるべく、審査登録制度への発展に学会としてどのように貢献できるかを検討した結果、深堀りのある審査技術や組織がQMSを活用する際の方法論に関する研究を行う必要があるとの結論を得ました。

このため、審査員の力量向上のための各種研究が今後とも必要との立場から、今回品質マネジメントシステム審査員を中心とした審査員の力量向上に関する研究部会を設立し、部会員の持っているナレッジを結集して、審査員の力量向上及び組織がQMSの改善に活用できる方法論を確立できるような活動を実施したいと考えています。また、この結果については、研究発表会などで発表する

り、幹事会を中心に研究部会の運営管理を行います。なお、研究テーマは各ワーキンググループで今後検討する予定です。

幹事会のメンバーは、次の方をお願いしています。

部会長: 福丸典芳

(有)福丸マネジメントテクノ

副部会長: 平林良人 (株)テクノファ

広報担当幹事: 上窪 均

(財)日本科学技術連盟

シンポジウム担当幹事: 上月宏司

(株)ケイ・シー・シー

会計担当幹事: 岩田哲雄

(株)日本環境認証機構

3. 部会活動の計画

部会活動は、原則として月1回土曜日の午後に実施します。具体的活動は新たなメンバーを募った後、9月から本格的に研究を開始し、2006.5の研究発表会での報告を当面のアウトプットと考えています。

部会活動の進め方は、ワーキンググループで研究テーマを決定し、これに基づいて各自が検討課題について検討し、その結果をメンバーで討論し、その後ワーキンググループとしての結論を出します。

また、研究発表会などで学会員に活動結果を随時報告し、各種意見を募り、これを元に検討を深めた後、学会としてのガイドを作成する予定です。

2. 研究部会の構成

研究部会の構成は図に示すように、幹事会と5つの研究課題に対するワーキンググループからなってお

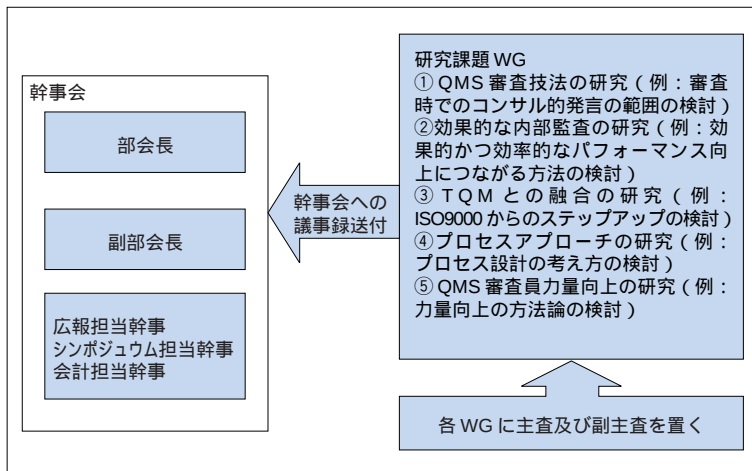


図 部会の構成

第96回 緊急講演会 ルポ

「事故・不祥事から 組織を守る」

今般のJR西日本の大事故やその他の大企業においても企業の価値を低下させる事故や不祥事が発生している。これらに対し、「当事者」として、あわてふためく事態を起こさぬようにと緊急講演会が開催された。8月2日(火)日本科学技術連盟千駄ヶ谷本部、参加者127名。



■講演1「事故・不祥事を防ぐ - 私たちに何ができるか - 」

東京大学教授 飯塚 悦功氏

事故・不祥事の起こる原因は①技術、マネジメントシステムの欠如とヒューマンエラー②価値観、文化、組織体質の劣化 社会ニーズの変化の感受性欠如などがあげられ、これの組織としての対応策が提案された。

①組織として ■一本筋の通っている哲学 ■トップ

の腐敗防止力 ■企業の存在意義、存在価値など根幹的尺度が必要であり、②組織運営としては ■外向きの姿勢 (Open) ■内部コミュニケーションの重視、■事実重視の思想と行動が必要である。

■講演2「変化激しい時代のリスクマネジメント - いま、市民は何を求め、企業はどのように対応すべきか - 」

松下電器産業(株)顧問 上野 治男氏

最近の不祥事の原因に“世の中が変わっているのに企業がそれに気づいていない”ことがあげられる。万一、不具合が生じた場合には前向きに対応すること。その場合は市民が主役であることを念頭に置きわかりやすく、根気よく説明する必要がある。ダーウィンの“種の起源”では生物は強いから生き延びたのではなく、変化に対応するものだけが生き延びることを例に、企業の変化対応の必要性を説かれた。

最後の質疑応答において、「不祥事の発覚は内部告発に因ることが多いが、ほとんどが事前に問題提起されていた」との説明があった。両講師がリスク・コミュニケーションに触れていたが「事故・不祥事を防ぐ」ための大きなキーワードがここにあると理解した。

山崎 正彦(元・コニカ株)

第305回 事業所見学会 ルポ

日産自動車栃木工場

2005年6月17日、定員を大幅に上回る37名の参加者と共に日産自動車の栃木工場に向かった。上三川町に300万㎡(南北4km、東西1km)もの広大な敷地を擁する、同社の国内最大規模の工場で、6,100名が鋳造部品、車軸及び完成車両(高級車、スポーツカー)を生産している。工場の周囲には高速テストコース(1周6.5km)や悪路など種々の走行コースがあり、まさに主力工場の名にふさわしい、圧倒的な陣容である。

紹介VTR上映の後、工務部生産課長・村越照治氏から生産の中心概念である、NPW(Nissan Product Way)について説明いただいた。根本はあらゆる面の同期化で、顧客から注文を受けた時点から生産現場、サプライヤー、物流会社にも情報を流し、時間や順序を確定し、全体最適化と高効率を目指すシステムであ

る。また、1.5ヶ月で新車種追加が可能な柔軟なライン、コストダウンと多車種混合生産を可能にした魚の骨のようなライン、働く人にやさしいラインなど数々の工夫を知った。その後車体工場・組立工場を見学。溶接ラインをも含む最先端工程をつぶさに拝見した。各ラインは自動化が進み、手作業でもスムーズに、体に負担をかけないように「宝船」なる作業者と共に動く工具置台が頻用されている。QC活動では、方針管理を徹底し、また工程単位に1名ずつQuality Leaderを置き、相互に情報交換しながら有機的に推進している。1台ずつ走行テストまでして品質保証している。QCサークルも非常に活発で、関東支部や全日本選抜大会でもしばしば入賞している。効果金額は年間1人当たり何と100万円(!)とのことである。

栃木工場は最近の日産車と同様にアイデアと工夫に満ち、生産面でも品質面でも実に「しっかり、どっしり」として、輝いていた。参加者一同、元気をいただいて帰路についた次第で、心より御礼申し上げたい。

神田 範明(成城大学)

第310回中部 事業所見学会 ルポ

シャープ(株)亀山工場 「亀山産 AQUOSの誕生」

平成17年7月1日(金)に第310回事業所見学会(中部支部第76回)が三重県亀山市のシャープ(株)亀山工場にて開催され、『亀山産 AQUOS(アクオス)の誕生』をテーマに、55名が参加した。

亀山工場は、テレビ映像技術と最先端の独自液晶技術を結集させ、第6世代と呼ばれる1500×1800ミリの大型マザーガラスを採用し、世界で初めて液晶パネルから大型液晶テレビまでを一貫生産している工場である。

見学するにあたり、AVC液晶事業本部液晶TV品質管理センター所長の安田様より「亀山AQUOSの品質取組み」を題目に「シャープの引き継がれるDNA」と「攻撃型品質管理(先の品質を予見・予測し問題発生を押さえ込む)」の活動の一つである「作業指導」について実例を用いてお話いただいた。

それは、よくミスをするパート作業員である女性に対し「結果から理解させる」取組みであり、引き起こ

す不良のロス金額を自分で計算させ、ロスの大きさを金額で実感させることにより自分のパート賃金では一生働いても払えないことを理解させるものであった。その結果、その女性のミスは全くなり、さらにはチームの改善活動を引っ張るリーダー的存在にまで成長したという意識改革の事例であった。

テレビ組立工場の見学は、20mほどの最終検査ラインの廊下を往復するガラス越しの見学で、映像の映りチェック目視検査の実作業などを見ることができたが、もう少し見たかったという意見が多く寄せられた。

その後、液晶パネル製造方法について、荒田様、岡田様より詳細な説明を受け、更にバスにて「スーパグリーンファクトリー」を目指し施したシステム(工場排水100%リサイクル、コ・ジュネレーションシステム、採光型太陽電池モジュール)の工場外周見学を行った。

環境を配慮した最新の工場であるとともに、品質に関する奥深い取組みを見学し、やはり「ものづくり」は「人づくり」なのだ痛感させられた見学会であった。

伊藤ゆかり(アイシン精機(株))

第95回中部 講演会 ルポ

「『日本のものづくり』における 競争優位を確保するために - ISO9001の有効活用と 改善力アップ -」

第95回(中部支部45回)講演会が7月20日(水)に愛知県刈谷市の(株)デンソーD-Squareにおいて開催された。大野理事の開会挨拶に続いて標記のテーマで下記の講演が行われ、約70名の参加を得て盛会となった。

■講演1『ISO9001で「業績向上儲けていんぐ」を構築する』

小田島品質経営研究所所長 小田島 弘氏

「儲けていんぐシステム」は品質マネジメントシステムであるISO9001をさらに充実・活用して業績向上に貢献するシステムである。攻めの分野に強いマーケティング手法によってISO9001のシステムを牽引し、業績を向上させる仕組みについてご講演頂いた。標準化と改善活動の推進を品質管理の急所と位置づけ、改善を有効に進めるためのツールとして「ばらつき」

「層別」「仕事」を挙げ、改善の方法とその効果をご説明頂いた。

■講演2『改善力を高める ~ 打つ手は1つとは限らない~』

ケイ・イマジン代表 今里 健一郎氏

料理において食材に合わせた道具を使うべきであるように、問題解決や課題達成においても目的に適した手法を活用すべきである。「改善の場面で、どのようなアプローチ方法が使えるのか?」をテーマに、様々な改善手法をアラカルト的にご紹介頂いた。環境変化に対応した問題解決のための基本的方針を踏まえ、目的別、分野別、発生状況別に事例を交えてのご講演であった。

いずれのご講演も質疑に対して丁寧な応答を頂き、用意された時間が不足するほどの盛り上がりであった。両氏のご講演に対して盛大な拍手を贈り、閉会となった。

石井 成(名古屋工業大学)

第35回通常総会開催

(社)日本品質管理学会第35回通常総会を右記のとおり開催いたします。

日 時：平成17年11月12日(土) 9:30～10:40

場 所：関西大学 1号館4階A41室(大阪・吹田)

2005年6月の 入会者紹介

2005年6月15日の資格審査において、下記の通り正会員4名、準会員7名の入会が承認されました。

(正会員4名) ○ 富田 真理子(日本科学技術研修所) ○ 千葉 聡(吉田製作所) ○ 引馬 尚子(電気化学工業) ○ 柴田 憲伯(SG OFFICE)

(準会員7名) ○ 井高 貴之・池田 太一郎・岡田 由木子・服部 啓子(慶應義塾大学) ○ 久保 欣也・吉崎 裕介・赤井 亮太(東京大学)

2005年7月の 入会者紹介

2005年7月15日の理事会において、下記の通り正会員11名、準会員1名の入会が承認されました。

(正会員11名) ○ 中田 敏行(日鋼運輸) ○ 澤田 潔(コニカミノルタビジネスエキスパート) ○ 海老田 剛郎(リブレス) ○ 春日 桂一郎(三菱総合研究所) ○ 中元 伊知郎(中元衛生コンサルタント事務所) ○ 佐藤 和英(日本品質保証機構) ○ 田村 裕之(パナソニックコミュニケーションズ) ○ 荒木 幹枝(日立製作所水戸総合病院) ○ 河

村 敏彦(国立がんセンター) ○ 村田 昇(ダイキン工業) ○ 島 弘志(日本規格協会)

(準会員1名) ○ 水越 一貴(山梨大学)

正 会 員：3046名
準 会 員：127名
賛助会員：172社199口
公共会員：22口

第35年度会費請求のお知らせ

第35年度(2005年10月1日～2006年9月30日)会費請求書を同封いたします。

郵便局自動引き落としを利用されている方には請求書を送付いたしておりません。10月25日に引き落としとなりますので、郵便口座の残高をご確認ください。

行 事 案 内

●第49回クオリティバップ(本部)

テーマ：資生堂における顧客価値の創造
ゲスト：田中 亮成氏(株)資生堂化粧品企画部
日 時：2005年10月下旬(調整中)

18:00～20:30

会 場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル5階研修室

定 員：30名

参加費：会員 3,000円 非会員 4,000円
準会員・一般学生 2,000円
(含軽食・当日払い)

詳 細：ホームページをご覧ください。

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第35回年次大会・関西大学(大阪)

日 時：2005年11月11日(金)・12日(土)
11日(金)

13:45～17:00 事業所見学会

A：辰馬本家酒造(株)

B：クリエーションコア東大阪

18:00～20:00 年次大会懇親会

12日(土)

9:30～10:15 通常総会
10:15～10:40 各賞授与式
10:45～11:40 新会長講演
桜井正光氏(株)リコー
12:40～18:00 研究発表会

参加費：

見学会(11日)

会 員 2,500円 非会員 3,500円
準会員 1,500円 一般学生 2,000円

懇親会(11日)

会 員・非会員 4,000円
準会員・一般学生 2,000円

研究発表会(12日)

会 員 4,000円 非会員 6,000円
準会員 2,000円 一般学生 3,000円

申込締切：2005年11月2日(水)

申込方法：ホームページから申し込みできます。
<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

行 事 申 込 先

本 部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

教員公募

東京理科大学 教員募集のお知らせ

募集人員：工学部第一部 経営工学科

教授、助教授または講師 1名

専門分野：統計学及びその関連分野

担当科目：統計工学、実験計画法、多変量解析、経営工学実験等

応募資格：(1)着任時において博士の学位を有する方

(2)大学院での研究指導、教育も担当できる方

(3)原則として45歳以下の方

着任予定日：平成18年4月1日

提出書類：ホームページをご覧ください。

<http://www.sut.ac.jp/utility/boshuu/kyoin/koubo20050713.html>

応募書式：<http://www.ms.kagu.tus.ac.jp/common/forms.html>

応募締切：平成17年10月28日(金) 必着

問合せ先：工学部第一部経営工学科 学科主任 教授 山口俊和
電話03-5228-8351 E-mail:yama@ms.kagu.tus.ac.jp

募集人員：工学部第二部 経営工学科 教授または助教授 1名

専門分野：質管理工学・統計工学またはその関連分野

担当科目：品質管理、経営工学実験等

応募資格：(1)着任時に博士の学位を有する方

(2)大学院での研究指導、教育も担当できる方

(3)原則として年齢40歳～55歳の方

(注：本学の教員の定年は65歳です。)

着任予定日：平成18年4月1日

提出書類：ホームページをご覧ください。

<http://www.rs.kagu.tus.ac.jp/kougaku2/mana/>

応募書式：<http://www.ms.kagu.tus.ac.jp/common/forms.html>

応募締切：平成17年11月11日(金) 必着

問合せ先：工学部第二部 経営工学科 教授 野口幸雄
電話03-5228-8357 E-mail:noguchiy@ms.kagu.tus.ac.jp